



米子市埋蔵文化財センターたより



第7号

2012年12月

発掘調査情報

—境内海道西遺跡の調査—



遺跡遠望



調査風景



八角形の竪穴住居跡



土坑内から出土した甕

境内海道西遺跡では丘陵東側の調査が終了し、現在は西側斜面部から裾部の調査の最終段階に入っています。今までの調査の結果、調査地では弥生時代後期から古墳時代前期にかけて、丘陵斜面部をテラス状に削平した段部に集落が形成されていました。その後、古墳時代中期になると集落を埋めて古墳が築造されています。古墳は円墳で、丘陵東側に2基、西側に2基の計4基ですが、中心の埋葬主体部はいずれも削平されて残っていません。しかし、周溝内からは供献土器や副次的な埋葬施設が見つかりました。また、円墳の周辺にも土壇墓が検出されています。その後、奈良時代になると、テラス状の平坦部に掘立柱建物が設けられていることなどが分かってきました。

調査は、西側裾部を残すのみとなりましたが、包含層中からは弥生時代前期の土器が出土しており、下層に弥生時代前期の遺構が包蔵されている可能性があります。風雪厳しい季節となりましたが、調査終了に向けてより一層の成果が期待されています。(濱野)

発掘調査情報

坂長ブジラ・尻田平遺跡の調査 —近代の堤と水門跡を発見—

国道 181 号線のバイパス建設工事に伴い 4 月から開始した、坂長ブジラ・尻田平遺跡の調査も 12 月中の完了に向けて大詰めを迎えています。今回の調査範囲は、平成 22 年度に鳥取県教育文化財団が実施した調査区の残地部分、約 5,000 m²が対象となりました。

調査の結果、ブジラ遺跡からは弥生時代中期の貯蔵穴と掘立柱建物跡、弥生時代と古墳時代、平安時代の河川跡、近世から近代の水路跡を検出しました。

中でも古墳時代の水路からは捨てられたとみられる完全な形の土器がたくさん出土したことから、ブジラ遺跡の周辺に古墳時代の集落が存在したことが推察されます。

ブジラ遺跡の東側に隣接する尻田平遺跡では、谷部の調査で弥生時代から古代の土器が出土しましたが、それ以外の地点では近世に行われた造成により中世以前の遺構が削平されていることが明らかとなりました。また、調査区の南西部ではカマボコ形に土を盛り上げて造った堤と、水門状の石組を検出しました。この遺構の性格については、明治時代頃に造られた「ため池」のような遺構ではないかと考えられます。(佐伯)



発見された水門跡

整理室たより

現在、整理室では国道 180 号線南部バイパス関係の遺跡調査報告書の作成作業中です。

南部バイパス関係で調査した遺跡は、平成 20 年度末から取り組んだ南部町所在の清水川六反田遺跡、清水川御崎前遺跡、境北井塔遺跡、境矢石遺跡、福成大坪上遺跡、境内海道西遺跡の 6 遺跡で、膨大な量の報告書作成業務が残っています。

整理作業員は日々、遺物実測や版下作成作業に追われています。来年度には、これらの遺跡調査の成果をまとめた報告書が刊行される予定です。



遺物の実測作業

米子市街地の南、国道181号線が宗像の狭い谷を抜け出た所に、南西から北東伸びる標高50m前後の日原の独立丘陵があります。その丘陵上に前方後円墳2基、円墳5基、方墳1基の計8基からなる日原古墳群が所在します。

古墳群中で唯一発掘調査された6号墳は、一辺21m、高さ2mの方墳です。調査で箱形木棺墓3基、割竹形木棺墓1基、土壙墓2基、土壙5基が発見されました。中心の被葬者は古墳中央の大きい掘形の中に粘土で被覆した長さ2.4m、幅60cm、深さ40cmの箱形木棺に埋葬されていました。



日原6号墳の方墳全景

棺内は赤色顔料で覆われており、副葬品として鉄鏃2本、鉄槍1本が発見され、矢柄や槍柄の樹皮や木質部の一部も残存していました。また、棺東側にも樹皮と木質部が弓状に残っており弓が副葬されていたようです。木棺墓の上から高坏、低脚坏、器台などの土器が供献された状態で発見されており、埋葬後の祀りが行われたと考えられています。

日原6号墳は方墳という形と、木棺墓という棺と、墓壙上に供献土器を持つことから、弥生時代以来の伝統的な埋葬方法を踏襲した在地性の強い古墳です。この古墳は米子平野で最も古い時期の古墳とみられ、法勝寺川の下流域を統括した首長の墓と考えられています。(小原)

コラムー弥生遺跡を掘る ⑥弥生時代前期 一目久美遺跡ー

一目久美遺跡は、たより2号で紹介したように山陰を代表する弥生時代の遺跡として知られています。1953年に佐々木古代文化研究室により調査されて以後、数次にわたり調査されました。

1982年の加茂川改良工事に伴う発掘調査では農耕文化の姿を具体的に物語る水田跡や水路などの遺構と、木製の農耕具等が多数発見されました。水田跡に残されていた多数の足跡は、当時の人々の農作業の様子を彷彿とさせました。

また中国の陶埴の流れをくむ土笛が出土しており、弥生人の奏でるメロディが水田に響きわたっていたと想われます。(小原)



一目久美遺跡の土笛

センター・資料館日誌

- 10月13日 米子城講演会「戦国時代の西伯耆における戦乱」於 文化ホール
講師 県史編さん室長 岡村吉彦
- 10月16日 米子高等学校生徒2名がインターシップで境内海道西遺跡調査に従事した。
- 10月20日 講座・米子城発掘物語Ⅱを開催し、米子城出土の陶磁器の解説を行った。講師 佐伯純也
- 10月22日 米子南商業高校2名がインターシップで埋蔵文化財センターの整理作業に従事した。
- 10月24日 島根大学学生が卒論研究で古墳資料調査に来館された。
- 11月4日 信金ウォークが福市遺跡を目指して行われた。
- 11月7日 佐々木謙資料の調査で岩佐先生が来館された。
- 11月11日 米子城下町ガイドツアー第3回・博労町～勝田町方面を開催した。
講師 高橋浩樹
- 11月12日 県文化財団玉木調査員が写真撮影のため来館された。
- 11月16日 大阪大学大学院生が北山古墳資料調査で来館された。
- 11月23日 北陸学院大学小林教授が「スス・コゲワークショップ」のまとめに再来館された。
- 11月25日 山陰歴史館企画展「江戸時代の人々のくらし展」が閉幕した。
- 11月27日 出前講座「発掘された米子の歴史」を福生東公民館で行った。
講師・小原貴樹
- 11月30日 むきばんだ史跡公園の小口氏が

妻木晩田遺跡資料調査で来館。

- 12月4日 北陸学院大学小林教授が土器のスス・コゲ調査で再々来館された。
- 12月7日 国道181号改修工事関係の坂長ブジラ・尻田平遺跡の調査が終了。
- 12月10日 国道181号改修工事関係の越敷山古墳群の調査が開始された。
- 12月15日 北陸学院大学小林教授・群馬県外山政子氏が土器のスス・コゲ調査で再々来館された。

編集後記

平成24年も師走となり、雪が降る季節となりました。今年は大きな災害も無く穏やかな一年でした。埋蔵文化財センターでは、調査員は寒い中でも遺跡発掘調査の現場へと出かけていきます。整理室では掘り出した遺物整理と報告書の作成が急ピッチです。この間センターへ考古学を学ぶ学生が卒業論文作成のための調査に来館し、実測などに取り組んでいました。



(写真 卒論調査の学生)

発行日 平成24年12月20日
発行者 米子市埋蔵文化財センター
指定管理者 米子市教育文化事業団
電話 0859-26-0455
Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp